

だまされても信じてやるのが教員だよね

子供が自分を守るために、ごまかそうとしたり、嘘をついたりする場面に遭遇することは珍しくない。それも同じ子供が繰り返して。「またか……」と悲しい気分や時には腹立たしい思いさえする。でも、そのたびに担任は、一生懸命その子の話を聴いたり、「もうしないよね。」と約束させたりして心を砕く。その底には子供をひたすら信じ、何とかしてやりたいという教員だからこその思いがある。

親が我が子に抱くのと同じように、「決して見捨てはしないよ。」と信頼に満ちた優しさを私たちはもっていたい旨の先輩の言葉であった。

人は信じてくれる相手を裏切ることができないし、その信頼に応えようとする。

「だまされても、だまされても、信じてやるのが教師の務めである。」と後輩に伝えている。